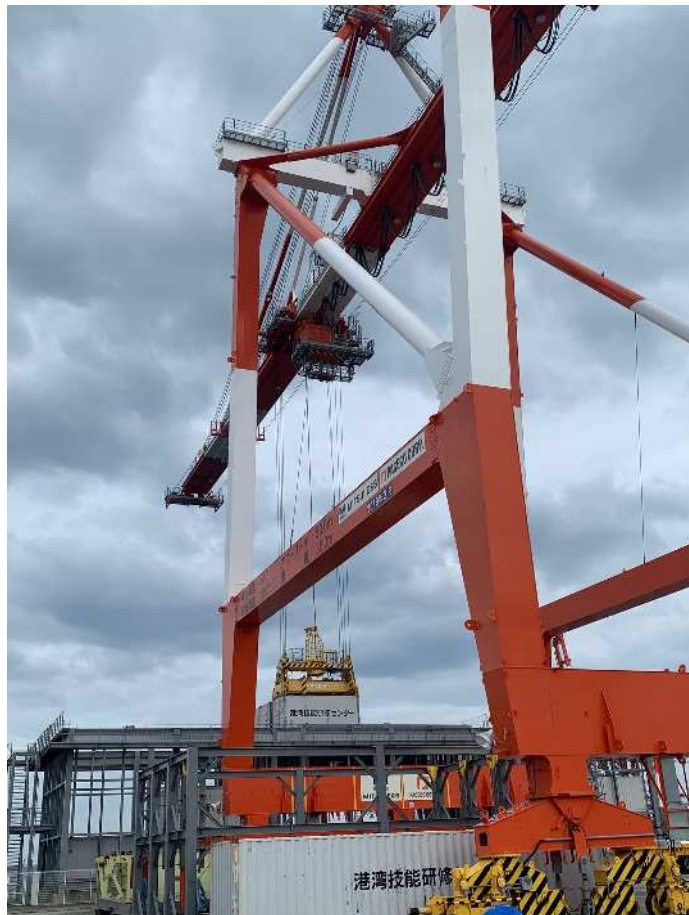


神奈川交運労協 港湾技能研修センター視察学習

報告書



神奈川交運労協は、9月4日(月)、神戸市:ポートアイランド『港湾技能研修センター』にて『視察学習』を実施。各産別から15名が参加しました。

今回の視察学習は、港湾関係者の就業教育を総合的にサポートしている『港湾技能研修センター』を視察しました。

施設を案内していただいたのは、黒田さん。



この施設は、①港湾荷役作業に必要な免許・資格の取得 ②港湾荷役機械の操作技能の習得 ③新入社員研修等の従業員教育の支援。の3つを柱として事業を展開しています。

①港湾荷役作業に必要な免許・資格が取得できる。フォークリフト・玉掛け・船内荷役作業主任者などの技能講習、クレーン・揚貨装置などの実技教習及び大型自動車などの自動車教習を行い、港湾荷役作業に必要な免許・資格の取得をサポートしている。

②港湾荷役機械の操作技能を効率的に習得できる。ガントリークレーン・デッキクレーン・ストラドルキャリアーなどの荷役機械やコンテナ船の船倉を模した船形などを備え、実際の荷役と同様の環境で実践的な訓練を行っている。また、実作業を通じて集中的に繰り返し訓練することで効率よく操作技能を身につけることができ、港湾労働者のスキルアップに繋がっている。訓練では「安全な操作」に重点を置いて指導しているそうです。



③新入社員研修等の従業員教育を支援する。新入社員等を対象に、若年港湾労働者研修を実施。港湾で働くために必要な知識の習得と安全意識の養成を目的として行っている。また、安全衛生や港湾運送事業に関する基礎知識、さらには、ビジネスマナーを学ぶ他、安全対策の考え方について、演習などを交えて学び、実技では、安全な服装や保護具の装着、クレーン荷役を例にした危険体感実習を行い危険予知の重要性等について学びます。また、フルハーネス型安全帯の使い方なども研修している。

従業員教育の一環としての活用されているのが『危険体験研修』(1日6時間)港湾に特有の各種危険(高所作業、荷役機器、飛来・落下、転倒など)を疑似的に体感し、危険感受性の向上を目的として行う研修。港湾現場でも、作業設備や作業環境の整備など安全対策が進み、災害を身近に感じる機会が少なくなっている事から危険を感じ取る能力が低下している。この研修では、ハーネスを付けてのぶら下がり、昇降器具の乗り降り、フォークリフトの死角・外輪差、ガントリークレーン・デッキクレーンのクレーンまわりの作業に潜む危険などを疑似的に体験することを通じ、危険を危険と感じ取る能力や危険を予知する能力を養成している。

その他、港湾関係事業者の方に限られるが、大型自動車教習・大型特殊自動車教習・牽引自動車教習も受講できる。

まさに必要なもの全てが整っている大変ありがたい施設です。一通り説明を受け、実際に施設内の訓練施設を見学しました。

実際間近に見るガントリークレーンは雄大！港湾労働者でなくても憧れる。業界内では、『ガンマン』と言われ、憧れの職業になっている。

